

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470800455		
法人名	有限会社 エフ		
事業所名	グループホームいせ		
所在地	三重県伊勢市一之木4-11-31		
自己評価作成日	平成 29年 9月 15 日	評価結果市町提出日	平成29年11月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kihon=true&JigvovsCd=2470800455-00&PrefCd=24&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29年 10月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自身の持つ力を発揮し、皆で助け合う笑顔が絶えない家族、一人ひとりの思いを大切に同居者様同士と職員が日常生活のかかわりの中で、大切な家族としての関係を築きながら、社会と繋がった当たり前の生活が送れるように支援させていただいています。当ホームも開設からほぼ15年、多くの認知症の方を支援し、又看取りもさせていただきました。悲しい別れもあり、新たな出会いもあり、涙も笑顔も全部ひっくるめて現在のホームがあると思います。開設時からの職員も多い中、若いフレッシュな職員も増え、地域の方や協力医、訪問看護、ご家族様の協力を得ながら、笑顔と活気あるホームであり続けたいと日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には、コンビニや喫茶店、焼肉店やスーパーがあり、地域には昔から住んでいる人たちも沢山いる。そんな街の一角にある事業所である。利用者の皆さんは散歩の際、地域の人達と声を掛け合い、時には近くの喫茶店や焼肉店に出掛けるのが楽しみの一つである。事業所内は明るさと清潔感が印象的で、一人ひとりの持っている力を大切にしながら、心に寄り添うケアの実践(基本理念)に取り組んでいる。又、事業所は、終末期の支援にも積極的に取り組み、多くの利用者の看取りを行ってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、実践のための振り返りをミーティングで行っている。日々の申し送りの中でも、気付いたところ等、理念に沿った考えの下話し合っている。	事務所等に理念を掲示し、申し送りやミーティング等の中で理念に沿ったケアがされているか振り返りを行いながら、理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や喫茶、買い物、外食等の外出ケアや、地域行事の参加等、日常的な交流を行っている。開設記念行事や家族交流会を開催し、地域の方を招いて食事をしたり、歌を歌うなどの交流をしている	地域のふれあい祭りや餅つき等の行事へ参加し、又、事業所の開設記念日や家族交流会には地域の方も招き、地域の人達と日常的な交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出支援等で地域の方と交流の機会を多く持つことにより、認知症の方の理解と、援助の輪を広げている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、様子、行事等の報告、職員の移動や入退社等の報告もしている。問題となっている事について話し合い、参加者からの意見や要望があればケアに取り入れるようにして、サービスの向上につなげている	運営推進会議に地域包括支援センターや民生委員、地域の代表等を始め、利用者・家族方にも参加してもらい、2ヶ月に1回、定期的に開催している。主として入所者の状況や行事等の報告を行い、話し合いを行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の申請時や、運営推進会議や研修会等で、入居者の生活の様子、現場の状況を伝えるようにしている。災害時の避難場所として、協力関係の構築に努めている	運営推進会議等を通して、事業所の状況を伝えながら連携を密にし、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践の中で気付いたことのケアの振り返りを行い、身体拘束をしないケアの理解と共通の意識が持てるようにしている。基本的なケアを充分に行い、より良いケアの実現に向かって努めている	身体拘束防止のマニュアルを作り、常に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日々のケアの中で、拘束に繋がるような対応があれば、随時話し合い改善につなげている。安全確保のため玄関の施錠をしている。	身体拘束の内容やその弊害について、職員間の共通認識を深めていくため、職員研修や玄関の施錠についての話し合い等も行い、身体拘束をしないケアへのより充実した取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する書籍や資料をすぐに見られるようにしている。個々のケアに関してはカンファレンスにて振り返りを行い、職員間で注意し合える状態にし、新しい職員には先輩職員がその場その場で助言し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、学ぶ機会を持つようになっている。入所者様の個々の必要性については、状態に応じて家族に提案したり、相談に応じたり、活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解約に関する説明は入居時に時間をかけて行い、疑問や不安がないように心掛けている。疑問や質問には出来るだけわかりやすい言葉で答えるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは手紙や電話、面会時に生活の様子を報告する等、気兼ねなく話せる雰囲気を中心に掛けている。運営推進会議に市職員の参加がある事を伝え、頂戴した意見はミーティング等で反映している	運営推進会議に利用者・家族の方にも参加してもらっている。家族とのコミュニケーションを大切に、面会時に生活の様子を話し、気兼ねなく話せるような関係づくりに努めている。2ヶ月に1回、手紙を送り、意見も出してもらっているようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間やミーティング等で、随時に職員の意見や要望、問題点・アイデアを出せるようにし、管理者が代表者に報告し運営に反映している。	月一回の職員会議で、運営に関する話し合いもしている。職員間のコミュニケーションを大切に、職員が意見や要望が出しやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は実績や個々の努力に対して一定の評価を示している。職場環境に関しては、管理者が職員の意見を聞き取り上申し、環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に管理者より認知症ケアについての研修を実施後、実践現場に入ってもらい、先輩職員と一緒に実践しながら、ケアの方法、技術などを習得できるようにしている。また施設内外の研修へも参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊勢地区サービス事業者連絡協議会に加入し、研修や交流会、見学会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に際しては必ず面談を行って心身の状況、生活の様子を確認し、本人の抱えている不安や要望を会話から受け止められるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前には本人だけでなく、家族が抱えている悩み、苦勞、これまでの生活の様子等を聞き取り、安心に繋げていけるようにしている。家族との関係構築の第一歩と考えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや相談を受けた際には、本人、家族双方の思いや抱えている問題・悩みの把握に努め、必要な支援を共に考え、サービスにつなげるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、盛り付け、配膳、洗濯畳みなど、その人の出来る事を見極めながら手伝いをしてもらい、入居者同士、職員と入居者が互いに助け合える関係作りを考えながら支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子や出来事、職員の思い等を手紙で伝え、情報を共有している。 家族の絆、想いを大切にして、共に支えあえる関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、近所の方、兄弟、親戚等の来所は、いつでも来てもらいやすい雰囲気作りをして、関係が続いていけるように努めている	家族や親戚、知人などが訪問しやすい事業所づくりに努めている。家族の協力を得ながら、実家や馴染みの美容院等へ行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、会話が弾むように席を工夫したり、ストレスがたまらないようにも努めている。車椅子の方を元気な方が押して散歩する、食事が進まない方に声掛けをする等、様々な助け合う場面があり見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や事業所に移られた場合は、心身の状況や生活の様子も伝えるようにしている。共に過ごした家族としての関係を大切にしたいと思っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から出てきた言葉や表情から本人の思いを読み取り、また会話の中で思いを引き出せるように努めている。聞き取った思いや希望はカンファレンスを行い、職員が共有し実践に努めている	日々の生活の中での言葉や表情から、本人の思いや意向を把握するようにしている。夜等に本人と一対一の関係になった時を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、病歴、生活環境等のアセスメントを行い、全職員が共有している。入居後も本人との会話や家族、友人の面会時に話しをする中で情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察と個々の記録と確認を申し送り、記録の読み取り、カンファレンスを行うことで、一人一人の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の持っている力や本人の言葉から課題を見出し、面会に来られた家族や友人・知人から得られた情報や意見を活用し、生き生きと暮らせる支援方法を話し合い、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族等から十分意見を聞き、職員会議で検討して介護計画を作成している。モニタリングを確り行いながら、随時の見直しと共に、3ヶ月毎の定期の介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動・表情、職員の気づきやケアの実践を個別に記録し、職員間で共有をし、毎月のミーティングで話し合い、実践や介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の現況、希望に出来る限り添えるよう、柔軟な支援・対応が出来るように職員で検討し取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、近くの喫茶に出かける、季節の花の名所めぐり等、豊かな暮らしの実現のため地域資源を活かし楽しむことが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に連携医との24時間連携体制の説明を行い、本人・家族が安心して医療を受けられることを前提に主治医を選択していただいている。専門医が必要な場合は、職員又は家族の付き添いで受診していただいている	入居時に本人・家族の意向を聞き、係りつけ医を決めているが、殆どの利用者は協力医へ受診している。専門医への受診支援は、主として家族が行っているが、必要に応じ職員も行うようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の関わりの中での変化や気づきを週一回のDr受診、週一回の訪問看護に伝えて相談し、個々の入所者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。外部受診の方にも適切な受診が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の状況に応じて洗濯物やオムツを届け、担当看護師にホームでの状況説明や生活の状態を伝えたり、入院中の様子を聞き、ホームで対応出来る事は協力している。病院医師からの情報は連携医を通じて確認し、MSWとも相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の対応について説明を行い、家族の希望を伺っている。ホームでの終末を希望された場合は、連携医、訪問看護の協力を得て段階ごとに話し合いを持ち、家族の希望に添うようにしている	入居時に、重度化・終末期の事業所の対応について家族に説明し、本人・家族と話し合っている。事業所での終末期を希望された場合、協力医と連携しながら、終末期の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急急変時の対応に関する施設内研修を行っている。事故発生・緊急時の対応マニュアルが各階に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施。対応手順の確認や非常階段での避難、避難召集の確認、避難シミュレーション等を行っている。運営推進会議でホームの状況を伝え、互いに協力出来る事を協議している	年2回、避難訓練等を行っている。災害対応マニュアルを作成し、災害が発生した際の通報・消火・避難等の訓練を行っている。地域の防災訓練(年1回)にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のアセスメントを基に、気持ちを汲み取りながらのケアを心掛けている。言葉がけはゆっくりと穏やかに笑顔で、本人の聴きなれた言葉等、気持ちを汲み配慮しながら言葉をかけるようにしている。	人生の先輩として尊敬し、心に寄り添い、真心のこもったケアを目指している。本人の気持ちを大切にし、言葉がけは、笑顔でゆっくりと穏やかに、本人の聴きなれた言葉で話掛けるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活は個々の過ごし方を大切にしている。着替えの時は自分で選んでいただけるように働きかける等、自己決定の場面が増えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は個々の過ごし方を大切にしている。「天気がいいでどこか行きたいな」「どこでもええで連れってー」等、思いを表してもらえるように働きかけ、行き先等も希望を取り入れるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時の面談や本人、家族との会話からこれまでの生活の様子を伺い、化粧や好みの服装等、その人らしさを失くさない身だしなみやおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「何かすることない？」職員が台所に居ると話しかけに来てくれる。その方の出来る事を考えて利用者と職員と一緒に準備を行うようにしている。食事時間も会話が弾むよう、一緒に食事が出来るように努めている。	利用者に味付けを教えてもらったり、盛り付けや後片付け等をしてもらい、食事の準備等を職員と一緒に行うようにしている。献立は、利用者の希望も聞きながら作っている。外食も時々楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じて適切な分量を食べていただけるように支援している。必要と思われる場合は一日の水分量等を記録し、Drに相談をして適切なアドバイスを受ける等、一人ひとりの状態や、力に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力で足りないところはスタッフが介助をしている方、スタッフが口腔ケアをしている方等、一人ひとりの力に応じた口腔ケアをしている。訪問歯科による口腔ケアも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のサインやリズムを把握し、個々の力に合った排泄の支援が出来るようにしている。	オムツ利用者は、数名いるが、一人ひとりの排泄パターン、サインを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす機会を作る、健康茶を飲んでいただく等、便秘の予防を心掛けている。便秘時には個々に合う薬の服用や腹部マッサージ等を行い、出来るだけ自然な排便ができるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間は難しいが、日中であれば希望の時間帯、曜日に入浴できるようにしてる	週3回、午前中に入浴支援を行っているが、希望があれば、いつでも入浴出来る様支援している。入浴を拒否する利用者には、無理をせずに時間を変えて勧めたり、勤める職員を変えたり等の工夫をしながら、一人ひとりに添った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯、就寝時間は定めず、個々のリズムに合わせて対応している。夜間不眠気味の方はその原因究明のため観察・情報交換・話し合いを行い、安眠への支援を行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更、追加の場合は薬情報だけでなく、申し送りや連絡ノートに変更の理由や服用後の状態の変化を記して、全職員が把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方には調理や盛り付け、裁縫をしていただいたり、身体を動かすことが好きな方には掃除を、外出が好きな方には一緒に買い物を、個性や力を活かせるように支援している。施設内でのレクや外出支援にも力を入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「いい天気やなー」「どうするんや？」と外出好きな方がたくさん見え、季節が良ければ毎日のように近所へ散歩に、近くにある喫茶店は行きつけの場所となっている。一人ひとりの希望を会話から引き出し叶うように心掛けている。家族との外出、地域行事への参加も楽しみにされている	季節が良ければ、毎日のように近所を散歩し、時には近くの喫茶店に行ったりしている。季節毎、花見やイチゴ狩り等に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は個々の力に応じてお金を使うことが社会性を維持していくことと理解しており、外出時に品物を選び、自分が持っているお金で買えるか考え、お金を払い釣銭を受け取ることを自分で出来るように個々の力に応じて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出で、いつでも自ら電話をかけられるようにしている。自分でかけられない方には、通話できる状態にして本人に代わり話してもらっている。手紙を出して欲しいとの要望がある時はスタッフが預かり投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が混乱や不快を招かないように考慮しつつ、季節の花や絵、手作りの装飾品を飾って季節感を出している。日常の写真やイベント事の写真を飾って、思い思いの楽しみある空間作りを心掛けている	明るく、清潔感のある食堂(居間)で、壁には絵や手作りの装飾品が飾られ、部屋の一角にはソファが置かれている。廊下の壁には、事業所の行事の写真等も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のほかに畳みスペース、玄関ホールにはベンチや椅子を置き、一人になれる場所、思い思いにくつろげる場所となるように工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く安心出来る空間にさせていただき、使い慣れた物や好みの飾り、こだわりの物があれば持ち込んでいただくように家族に伝えている	居室の入り口に居室毎異なった暖簾が掛けられ、居室には、家族の写真や使い慣れた筆筒等の家具が置かれ、本人が寛いで過ごせるような居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り障害物は置かない、自分の部屋が分かりやすいように好みのものを掛ける等、安全に自立した生活が送れる環境作りに努めている。混乱や失敗の原因を考えて整備すると共に創意工夫している		